

参加会議・コース名称

PhD School on Ice Core Analysis Techniques (ICAT PhD School)への参加報告

■ 派遣中の活動と成果

[派遣中の研究実施状況とその成果を記載してください。具体的な研究内容・方法・成果については、今後の自身の研究の推進を考慮の上、公開して差し支えない範囲に留めてください]

グリーンランド氷床を掘削して得た氷試料（アイスコア）に含まれる不純物や気体の分析から北極域の過去の気候や環境を復元することができる。派遣者はグリーンランドアイスコアに含まれる固体微粒子の分析を行っている。アイスコアから詳細な北極域の過去の気候・環境を復元するため、不純物や気体の様々な分析方法と分析データの解釈に関して学ぶことを目的として、コペンハーゲン大学で開催されたPhD School on Ice Core Analysis Techniques (ICAT PhD School)に参加した。

平成 30 年 9 月 24 日から 9 月 29 日までの期間で行われたこのコースには、各国から計 27 名の大学院博士課程の学生と博士研究員が参加した。コースはアイスコア研究の歴史と掘削技術から始まり、年代決定、不純物や気体等の分析方法、さらに分析結果の持つ不確かさやその結果に基づく気候学的な解釈まで幅広く取り扱った。通常の講義だけでなく、参加者同士の議論、実際のデータを使った演習、分析装置の見学を通して、基礎から応用まで実践的に学ぶことができた。新たな知見に加え、このコースに参加する前から知っていた内容も改めて復習し、理解を深めることができた。また、未発表の内容を含む最新の研究動向を知ることができた。さらに、固体微粒子の分析を行っている参加者とコース内容や各々の研究内容に関して意見を交わしたことは、派遣者の現在の研究を進める上で非常に有意義であった。

このコースへの参加を通して、各国の大学院博士課程の学生や博士研究員との人的ネットワークを築くことができた。同世代の研究者とのネットワークを築いたことは、派遣者の現在の研究のみならず、グリーンランドアイスコアを通じた今後の北極域の過去の気候・環境復元研究を促進させる上で重要な基盤となることが期待される。

■ 派遣支援期間中の研究発表・受賞・アウトリーチ活動

[派遣中に学会等での研究発表・受賞・アウトリーチ活動があった場合、概要を記載してください。本若手派遣事業から旅費または参加費を支給したもの（科研費等、他の事業予算から経費を支出していないもの）が対象です]

派遣中に研究発表等は行っていないため、記載なし。

※図表・写真等を含めて構いません。本様式を使用する場合は、分量の目安は1~2 ページ程度です。